

学校運営協議会 議事録

校名	府立だいせん聴覚高等支援学校
校長名	藤田 太朗

開催日時	令和8年 5月28日(木)
開催場所	だいせん聴覚高等支援学校 大会議室
出席者(委員)	植田紀美子 委員、澁谷栄作 委員、榎藤幹晶 委員、前田浩 委員、 楫希代見 委員
出席者(学校)	校長、教頭、首席2名、部主事、進路指導部主任、教務部主任 生活指導部主任、情報コミュニケーション科長、自立活動主任、事務長
傍聴者	なし
協議資料	令和8年度 学校経営計画 他
備考	

議題等(次第順)			
1 開会挨拶	2 委員紹介	3 協議	4 保護者からの意見書について
5 閉会挨拶	6 その他【事務局】		
協議内容・承認事項等(意見の概要)			
各委員からのご意見			
3 協議			
1) 自立活動について【自立活動主任】			
・進路指導について、1年生から企業見学や実習に行ってはどうか。時代の流れとともに環境が変わり、働き方も変わっている。聴覚障害の方が活躍している様子も見学すると、進路選択の幅も広がるだろう。			
・内容に合わせて、学習グループや担当が変わるのは、教員同士の連携が大切になる。大変なことも多いだろうが、この取り組みを進められるのは、とてもすばらしいと感じた。			
・福祉制度に関する内容の際は、それぞれの地域福祉の担当に来校してもらい、講義していただく機会を設けてもよいのではないかと。			
・自立活動は、地域の学校にはない支援学校の強み。手話や進路指導などを手厚く指導してもらえるというのは、アピールにもなる。これからも続けてほしい。			
2) 地域支援事業「みみりんく」について【リーディングスタッフ】			
・相談件数も、一般的に小中学校よりも圧倒的に高校が多い。小中学校では先生が寄り添ってくれることが多いが、高校からは自分の力で学んでいかなければならなくなっていく。だいせんから、色々な学校に行きかけをしてほしい。			
3) 高等学校等デジタル人材育成支援事業について【情報コミュニケーション科長】			
・手話をテキストにするのは難しいが、大学や企業と連携して進めるとよい。			
・聴覚高等支援学校だからこそできるあの開発に寄与していただきたい。大学や企業のツールも借りながら、成果を出して行ってほしい。			
4) 学校経営計画について【校長】			
・学校教育自己診断の結果を踏まえて、生徒と教員の相互理解を深めていくべき。話し方などでトラブルになることもあるので、普段からコミュニケーションを通じて、関係を深めておくことよい。			
・「商品開発に必要な計画等を学び主体的な進路選択に繋げる」という項目について、最近の企業は分業化しているところが多い。工程全体を学ぶには、中小企業を見学するのがよいのではないかと。			
・様々な学校でSNSのトラブルが頻発していると聞くので、普段の授業から生徒同士がディスカッションする機会を設け、どんな場面でも応用力のある人間を育ててほしい。			
・廊下ですれ違ったら挨拶するなど、基本的なマナーを指導してほしい。			
4 保護者からの意見書について【事務局】			
・意見書の提出はなし			

次回の会議日程	
日時	令和8年11月12日(木)10:00～
会場	大阪府立だいせん聴覚高等支援学校 大会議室